

地域と連携し、選手と一緒に食と農を体験する機会を提供する

(第8回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

株式会社千葉ジェッツふなばし (千葉県)

プロバスケットボールチームの「千葉ジェッツ」では、「“ささえる”からはじまる社会貢献」をスローガンに、行政やJA、生産者と連携し、選手主導の農業体験や料理教室等の食育活動、こども食堂の開催、フードドライブ等、地域の課題解決を目指して取り組んでいます。

千葉ジェッツは、チームの成長を支えていただいたファンやパートナー企業、協力団体への恩返しとして地域貢献プロジェクト「^{ジェッツ アシスト}JETS ASSIST」を立ち上げました。

プロジェクトでは、令和2（2020）年から地元のフードバンクと連携して試合会場でのフードドライブを開催し、支援が必要な方へ食品を届けています。また、^{ふなばし}船橋市主催の中学生による地域振興策「子ども未来会議室」で出たアイディアの実現に協力し、地元食材や規格外の食材を使用した肉まんの販売やスポーツイベントでの地場産野菜の販売等を行い、中学生が地産地消や食品が消費者の手に届くまでを学ぶ機会となりました。

さらに、選手主体の取組として、地元食材を使用して選手と一緒に作る料理体験の開催や、選手と一緒に子供たちが田植えや稲刈り等の農業体験を行いました。料理体験では、参加者との質問タイムで選手が食事面で気を付けていること等、食育に関する内容についても交流しました。農業体験に取り組んだ選手は、「お米を作る中で、予想よりたくさんの人の労力が注がれているのだと再確認できました。」と話すなど、選手自身も食の生産現場を体験することで地域の課題を知り、また参加者は選手と一緒に体験することで、深く印象に残る食育体験の機会となっています。

そのほか、特産品である「船橋にんじん」をブランドとして発信するため、チームのデザインが入ったオリジナル出荷箱を製作しました。また、地産地消の取組として、地元農家から提供いただいた商品として出荷できない規格外野菜等を選手食堂で活用しています。

さらに、フードドライブ等の取組が評価され、令和3（2021）年12月に日本財団によるアスリートやスポーツに関する社会貢献活動の優れたロールモデルを表彰する「^{ヒーローズ アワード}HEROs AWARD」を受賞し、その賞金でこども食堂を開催しています。こども食堂では、食材に地元食材を使用するなど食育につながる工夫をしているほか、行政と連携することで、地域の小学生や、ひとり親家庭や様々な事情のある家庭に向けても周知をすることができました。こども食堂の参加者は「ゆっくり親子でご飯を楽しめた。」「苦手な食材も完食できた。」等の声が聞かれました。

今後も、「千葉ジェッツを取り巻く全ての人たちとともにハッピーになる」という理念を基に、地域課題の解決を目指すべく、地域に根差した活動を続けていきます。



中学生発案のスポーツイベントでの野菜販売の様子
(写真提供：株式会社千葉ジェッツふなばし)



選手と子供たちの田植え体験
(写真提供：株式会社千葉ジェッツふなばし)



こども食堂の様子
(写真提供：株式会社千葉ジェッツふなばし)